



口福のすすめ

発行/ 上田歯科医院 〒859-1503 南島原市深江町丙 281-1 ☎0957-72-2233

ホームページ <http://www.m-udent.com> Eメール info@m-udent.com



こんにちは、院長の上田です。今年のカレンダーも残すところあと一枚…、「師走」という言葉どおり、慌ただし
い時期になりましたね。大人にとっては忙しい12月ですが、子供たちにとっての12月といえば、何といても
『クリスマス』ですよ。子供：『サンタさんが来るまで寝ないで待っている…』 親：『寝ない子のところにサン
タさんは来てくれないから、早く寝なさい!』子どもの頃、こんなやり取りをした記憶はありませんか？実は、見
ることができないはずのサンタクロースを、クリスマスイブの夜に追跡している機関があることをご存知でしょ
うか？それはアメリカとカナダが共同で運営する『北アメリカ航空宇宙防衛司令部（NORAD）』です。いつもは人
工衛星や航空機、ミサイル発射の監視などを行っていますが、このNORADは毎年クリスマスイブに“サンタの
行方”を追跡し、インターネット上でその様子を動画で公開しているのです！もちろんこれは“仮想”追跡による
アニメーションなのですが（笑）気になるその追跡方法ですが、『まずはレーダーでサンタが北極を出発したのを確
認。トナカイの赤い鼻は赤外線信号を発し、人工衛星がこの熱を感知して居場所を特定。その後、世界中に設置し
た高速デジタルカメラで動画を配信』というユーモア溢れる説明がされています。日本語を含む8か国語に対応し
ていて、以前は日本の各都市や富士山の上を飛ぶサンタの中継もされたことがあったそうです。ご興味のある方は
ぜひ、インターネットで『NORAD サンタ 追跡』で検索してみてくださいね！

それでは、本年は自分自身と皆様の元気な生活を目標にしてきましたが、来年も引き続き頑張っ
てまいりますのでよろしく願いいたします。皆様どうぞ良いお年をお迎え下さい。 H&OH（健康と口福） 代表 上田 倫生

年末年始休診日のお知らせ

12月30日（日）～1月4日（金）です。

ご迷惑をおかけしますが宜しくお願い致します。



歯医者だけが知っている…!?

歯にまつわるいろいろ話

大昔の人々は歯痛をどのように考えていたのか？

大昔は歯科医もない時代でしたので、おそらく当時の人々は歯痛に対する不安感や恐怖感
は相当なものだったでしょう。

そこで今回は「昔の人々は歯の痛みに対してどのように考えていたか？」を少し垣
間見てみたいと思います。

古代中国では・・・

古代中国の甲骨文字（紀元前1700年～1028年頃の中国最
古の文字）によると、『王の歯を疾めるは、これ虫なるか、
これ虫ならざるか』と書かれており、当時は「歯を食う虫が
むし歯の原因」と考えられていたそうです。また、隋時代
（西暦581～618年）の医学書には、『歯を食う虫は体長が6
～7分で黒い頭』と具体的な大きさや色が書かれているそう
ですが、おそらくこれは“**歯の神経**”を虫だと思い込んでいた
ためと考えられています。



古代バビロニアでは・・・

世界最古「メソポタミア文明」の発祥地として知られる古
代バビロニア時代の書物（紀元前1900年頃のもの）には、
『歯を害する虫は呪文を唱えれば退治できる』と記されてい
ます。この時代の人々は、痛い歯に呪文を唱えた後、ヒヨ
スの実を歯の穴に詰めて痛みを取り除いていたようです。

※ヒヨスとは、ナス科の越年草のこと。

大昔の日本では・・・

日本では、明治時代までむし歯の原因や正体は全く知られ
ていませんでした。それ以前の日本では、歯ぐきが腫れて
熱を持つと、あごの周りがまるで蒸されたようになるため、
「蒸し歯」と呼んでいたという説もあります。また、治療
法も「**急急如律令**」と紙に書き、それを口にくわえて噛めば
治るとか、絵馬を奉納すれば治るとか、神だのみの的な要素が
大きかったそうです。